

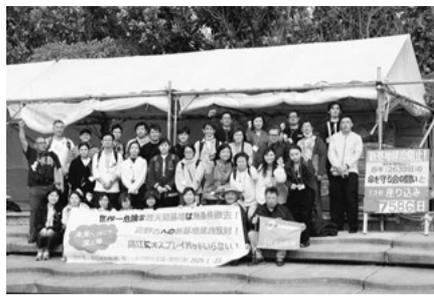
辺野古支援連帯行動報告

千秋病院リハビリテーション科 理学療法士 鶴飼 達也

1月23～25日にかけて、辺野古支援連帯行動に参加しました。

普天間～嘉手納

1日目は、普天間基地と嘉手納基地を中心に見学しました。普天間基地は世界一危険な基地とい



普天間飛行場へ向けて市街地上空を飛ぶオスプレイ(嘉数高台公園より)



にさらされている現状を目の当たりにしました。

嘉手納基地は運用が世界一危険な基地といわれています。米軍だけでなくさまざまな国・種類の航空機が訓練のために離発着しており、世界的に見ても事故発生率が高い基地であると説明を受けました。そのガイドの説明も全く聞こえなくなるほどの騒音が響いていました。

ガイドの方は、本当の意味での基地負担軽減を目指して、戦い続けていると切に訴えていました。移転ではなく、騒音や安全性、米軍関連の事

たい」と希望しました。本人の希望を叶えたいけれど知人たちの心配も分るので、本人にとっては何が一番いいのだろうと悩み、介護保険を利用しての施設入所ができないかも検討しましたが、要支援の判定だったため入所できる施設は見つかりませんでした。

本人の自己決定に

寄り添うということ

医療福祉相談室 社会福祉士 佐藤 和栄

その方は生涯一人で、知人に助けられながら、ひとりで自由に生活してきました。

自宅に帰りたい

2年ほど前に入院したことがあります。当時自宅の衛生状態は悪く、トイレは壊れて使えなくなり、部屋は害虫がいたり、排泄物で汚



辺野古新基地建設が進んでいる海上

見学中の私たちも警備員から何度も写真を撮られており、非常に恐怖を覚えたのと、こちらが犯罪者なのかという憤りも覚えました。

糸数

3日目の糸数アブチラガマ(自然洞窟)では、陸軍病院の分室として使用されていたそうです。ひめゆり学徒の数名で、最大1000名近い負傷兵を、暗闇で食料や薬などほとんどない状況で手当てをしていた実態を聞きました。

辺野古

2日目の辺野古基地建設では、ゲート前の座り込みや海上建設周辺での説明を受けました。座り込みを続けている方が機動隊に抱えられ、移動させられる場面を見ました。今回の参加を通して、辺野古新基地建設が一日でも早くストップするこ

2回目の選択

今回は訪問ヘルパーが自宅で動けなくなっている本人を発見し、入院になりました。病室を訪問すると、2年前のことを覚えていて、私に笑顔を見せてくれました。ほかの職員には「自宅に帰りたい」と言っていました。相談員は本人の自己決定を支えるという考えを改めて実感した事例です。

3・1ビキニデー代表報告会

ご参加ください

尾張健友会では、3・1ビキニデー集会にあわせて2月28日から3月1日に東京フィールドワークと3・1ビキニデー集会に代表が参加しました。3・1ビキニデー集会、第五福竜丸展示館やPTSDの日本兵と家族の交流館などを訪れ学んだことを報告します。

- 日時 3月13日(木) 17:15～18:15
- 会場 千秋病院リハビリテーションエントランス
- 報告者(代表団)
尾張健康友の会 岩倉支部 堀尾 金雄さん
千秋病院 リハビリテーション科 桃田 小百合さん
介護事業部 在宅リハビリテーション科 片岡 幸奈さん
介護事業部 介護保険サービスセンター 石原 千洋子さん
ケアハウスちあき 桑原 友さん



健友福祉会だより

ホームページ: <http://www.chikui.com/fukushi>

外出レクで楽しい一日

特別養護老人ホーム・ちあき

暦の上ではもう春だというのに余寒がまだまだ続いている中、特養・ちあきでは外出レクで、入居者3名・スタッフ3名でビバホーム一宮に行ってきました。まず目に留まったのがペットショップ！いろいろな犬種の子犬たちを見たり、店員さんが子犬を外に出してくれて、実際にふれあうこともできました。施設に入居している



行きの車内では外出できることを喜び、ワクワクしている様子ですが、小さな子犬たちとふれあい、キラキラとした表情を見せていて、職員にとっても癒しの時間となりました。その後はゲームセンターに行きました。なかなか馴染みがないからこ



そ、ゲームセンターの景色を見て、興味津々に目を輝かせていました。クレインゲームにチャレンジした方は、なんと一回で景品をゲットすることができ、みんなで大喜びしました。

今後も利用者の皆さんに喜んでもらえる企画に力を入れていきます。

介護福祉士 厨川 真衣